ninoyu satoshi
発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310
発行人：二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。　題字：栢木寛照

年間購読料 1,200円(一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口 座 01000-4-62360

えとす

平成23年 6月号
No.235

京都の智恵を日本に活かす。

二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

日増しに高まる菅首相退陣の声
最高指導者としての資質に欠ける菅氏

早期解散で自民政権の樹立を

昨年6月8日に就任した菅首相は在任1年間が経過した。消費税10％発言、尖閣問題の処理のまずさ、外国人からの違法献金、唐突なＴＰＰ交渉への参加表明等、その手腕を見る限り、首相は明らかに国家の最高指導者としての資質に欠ける。しかも大震災以後、被災地の復興、被災民への救済取組みの遅れ、原発事故の不手際が国会で厳しく追及されている。さらに中部電力浜岡原発の稼動停止要請等思い付きが多く、閣内にも不協和音が出ている始末である。経済協力開発機構会議で2020年初頭までに1000万戸に太陽光パネルを設置すると出来もしない約束をした。まさに行き当たりばったりの連続である。6月2日、野党提出の内閣不信任案は否決されたが、民主党内からも首相の早期退陣を求める声が急速に噴き出してきた。民主党はデタラメな公約を掲げて政権を獲得した。公約を改め、一日も早く総選挙を行い、堂々と国民に信を問うべきである。

6月1日　党首討論で菅首相の退陣を強く求める谷垣自民党総裁

恒心

★余りにもお粗末な菅首相。この首相の在任が一日長く続けば続くほど日本の国力が低下すると憂える人が多い。今や出来るだけ早く退陣してもらいたい、いや辞めさせるべきだというのは国民の総意となっている。そんな背景があって6月2日の「自民党・無所属の会・公明党・たちあがれ日本」共同の内閣不信任案提出となった。★前日の夜まで、民主党内では、鳩山由紀夫、小沢一郎、原口一博氏などの有力者が、野党の内閣不信任案に賛成の態度を示していた。僅かの差であっても不信任案は可決されるものと確信していた。可決されても首相の椅子にすがり付きたい首相は、総辞職せずに必ず解散総選挙を断行すると思っていた。★2日、私は会館の自室で民主党の代議士会のテレビ中継を見ていた。鳩山氏が手を挙げ、発言を求めたので、首相の即時退陣を求める発言をするものとてっきり思っていた。よく話を聞いていると、朝、自分と首相が話し合った結果、早期に退陣することで合意した。従ってこの際、民主党は一致結束して、野党提出の不信任案を否決してもらいたいと述べていた。★不信任が可決され、総選挙の準備にかからなければならないと思っていたのに、鳩山氏の発言にわが耳を疑った。一体何が起こったのか。どんな約束が交わされたのか。こんなに簡単に局面が変わるのか。鳩山氏の豹変振りに正直驚いた。★否決された後、鳩山氏は首相の辞める時期を、震災復興基本法の成立、第2次補正予算編成の目途がついた段階と述べた。これに対し、首相は原発、震災復興に一定の目途がついた時期で、今すぐに辞めるつもりはないと表明。これを聞いて鳩山氏は現職首相をペテン師呼ばわりした。情けない民主党の内輪もめである。

参議院文教科学委員会

岩手県宮古市に実情視察

3月11日に発生した東日本大震災から3ヶ月以上が経過した。今なお9万を超える人々が、不自由な避難生活を送っている。仮設住宅はお盆までに全ての希望者が入居できるようにすると菅首相は表明している。しかし、実現はほぼ絶望的だと言われている。政府の対策の復興計画も決まらない現状に、地元自治体も動くことが出来ず、被災民の不満も日に日に高まっている。震災後3ヶ月が経過した現在、学校の授業も再開され、日常を取り戻しつつあるが、学校もそこに学ぶ児童生徒も大きな被害を受けた。参議院文教科学委員会（二ノ湯智委員長）では今後の復旧、復興、防災のためには、学校の実情等を視察し、現場の声を聞くことが大事だと考え、6月9日、岩手県宮古市を訪問した。早朝東京を出発、新幹線、バスで約6時間、宮古市に着いたのは12時20分、東京から日本一遠い市であると言われている。

地元自治体幹部との懇談会

委員会一行は地元の山本宮古市長、前川市会議長等と懇談した。市長は市民の健康問題、そして家と職を失った中高年の人達の精神的落ち込みをいかに救済するかに心を砕いていると語っていた。

山本市長から要望書を受け取る二ノ湯委員長

犠牲者ゼロの鍬ヶ崎小学校

続いて鍬ヶ崎（くわがさき）小学校を訪ねた。昭和8年3月に三陸大津波が発生、宮古地域も大被害を受けた。それ以来、宮古市では毎年避難訓練が行われている。今度の大津波は約40mほどの高さで町を直撃し、破壊してしまった。しかし、鍬ヶ崎小学校では震災前の3月3日に避難訓練を行ったばかりで、生徒全員が無事だった。生徒は元気一杯遊んでいたが、運動会が終わると運動場に仮設住宅が建設される。

小学校屋上から鍬ヶ崎地区を展望

田老第一小学校

次に田老地区の田老第一小学校を訪ねた。田老地区は「津波太郎」の異名があるほど津波被害で有名で、明治29年、昭和8年の津波で地区は全滅に近い被害を受けた。その都度住民は不撓不屈（ふとうふくつ）の精神で地区を再建してきた。高さ10m、2.4kmに及ぶ防潮堤は万里の長城と呼ばれていた。だが、想定外の大津波は大防潮堤を越えて田老地区を破壊してしまった。第一小学校生徒の犠牲者は、地震直後の教職員の適確な判断で、1人のみであった。懇談会では子供達の精神面には問題はないが、仕事を失い、失業者となった両親が多く、それが家庭の不安につながることが心配である、日頃から災害に備えるために、学校を防災拠点にして、食糧等の物資を備蓄しておく必要がある等の意見が出た。一方、教職員の通勤、給食、授業日数の確保には支障はないということであった。原発事故を受けての保護者の心配は一切ないとのこと。ただ、地域が崩壊し、学校、地域、家庭との連携が十分に取れなくなることを心配していると校長が話していた。校庭を歩いていると、子供たちが元気に「こんにちは」と挨拶をしてくれた。大きな張りのある声を聞いて安心した。

委員会からの見舞金を手渡す二ノ湯委員長

この日の現地視察の生の声を審議の参考にして、今後の国の施策に反映させていかなければならない。

京都府議会、自民党が正副議長を独占
議長に近藤氏、副議長に小巻氏

5月23日に開会した臨時京都府議会において、自民党が議長、副議長を独占した。従来は慣例として、知事を支える与党の中から、第1党が議長、第2党、3党が副議長を選出してきた。しかし国政における政権交代が京都府議会に変化をもたらした。1年前の知事選挙では、今まで自民党府連の幹事長が担っていた選対事務長の座を民主党の支援団体である連合京都の会長に奪われた。自民党にとっては大きな衝撃であった。それ以降、自民党議員団は与党として協調はするが、自民党らしさを府政に反映させる動きがでてきた。こうした中で5月臨時議会を迎え、侃々諤々の議論をした結果、議員団の総意として副議長も自民党に貰いたいと民主党に対して強気の交渉を行った。統一地方選挙で大きく勝利したとは言え、府議会の定数は60議席で、自民党は27議席で過半数に及ばない。色々紆余曲折があったが、自民党の副議長を阻止するために共産党と手を組むことはできないと、民主党が折れた形で決着がついた。昨今、地方議会に対する有権者の視線は大変厳しい。全国的に見ても、首長と与党との関係がやや安易に流れ、監視機関としての地方議会の形骸化が強く批判されている。京都府議会も、林田府政の誕生以後、少し緊張感を欠いた関係を続けてきたきらいもあった。しかし、このことで、各政党が自らの理念に基づき活発に議論する議会へ大きく変わりそうである。また、今回の自民党府議団の行動が京都府の政治状況にも大きな影響を与えそうだ。

近藤永太郎議長

近藤永太郎氏 経歴
昭和47年3月　龍谷大学法学部卒業
平成10年4月　京都府議会議員に初当選
平成23年3月　自民党京都府議団代表幹事

小巻實司副議長

小巻實司氏 経歴
兵庫県立高砂高等学校中退
株式会社小巻電設工業所取締役
平成7年4月　京都府議会議員選挙 当選

二ノ湯会長、橋村幹事長を選出
京都府連新役員体制が決まる

5月28日、自民党京都府連大会で二ノ湯会長、橋村幹事長が承認、決定された。その後、会長、幹事長の下で、役員人事が進められていたが、西田昌司副会長(参議院議員)をはじめ、府連3役・執行部7役の新しい体制が決まった。今後は3役(会長、副会長、幹事長)と執行部7役(総務会長、政調会長、組織委員長、広報委員長、党紀委員長、財務局長、副幹事長)が中心になって、京都府連を運営していくことになる。新役員の任期中には、確実に総選挙がある。2、3、4、6区の選挙区支部長(次期候補予定者)も決定し、何時選挙があっても戦いに臨む体制も出来た。さらに、2年後には参議院選挙も控えている。当面は来年早々にも執行される京都市長選挙への対処である。中央での自民、民主両党の激しい対立の中で、どんな構図の選挙となるのか、自民党府連としては、市議団と緊密に情報交換しながら態度を決めることになる。

自民党第4選挙区支部長決まる
次期衆議院議員選挙に田中英之京都市議擁立

支部長空白であった京都府第4選挙区の支部長に京都市会議員の田中英之氏(40才)が決まった。自民党京都府連では第4選挙区の支部長を選ぶためには、政権構想会議で強調されているように、一部の幹部が密室で決めるのではなく、意欲のある人材を広く募るために公募方式を採用することになった。新聞広告、自民党のホームページで募集をしたところ、自薦14人、他薦1人の計15人の応募者があった。選考過程の透明性を高めるために、選挙区内に居住する一般の有識者を含め15人で構成される選考委員会(委員長・谷垣禎一衆議院議員)を設置した。4月23日に第一回選考委員会を開催し、3回の委員会を開いて書類・面接審査を実施、最終的に2名に絞り込み、最終決定は選考委員会のメンバーである国会議員に一任されたが、いずれも甲乙つけがたく、選考委員会全員の投票で正々堂々と決着することが望ましいという結論になった。選挙の結果、京都市会議員「田中英之氏」を第4選挙区支部長、次期衆議院選挙の候補者に決定し、6月10日党本部に進達した。

大島副総裁・河村選対局長らに
激励を受ける田中英之氏

学　歴／京都市立西京極中学校卒業
京都成章高等学校卒業
京都外国語大学卒業
議員歴／平成11年4月～平成23年
京都市会議員
京都市会改革推進委員会 委員長
自民党歴／青年部長　副幹事長

'11 夏まつりのご案内

ご好評いただいております恒例のビアパーティを開催いたします。
是非ともご参加ください!!

日時　**8月1日(月)・2日(火)　16：00～**

場所　**ホテルグランヴィア京都**（JR 京都駅ビル内）
３階宴会場

お一人様 **5,000**円

お問い合わせ：二ノ湯さとし京都事務所
お申し込み先：TEL 075-315-2228 FAX 075-315-2310

身辺雑記

一、東日本大震災では、住民の避難誘導に最後まで責任を果たした人たちがいた。防災無線で、「津波が来ます。早く避難して下さい。」と必死に呼びかけ、自らは津波の犠牲となった南三陸町の女性職員遠藤未希さんの声は未だに耳に残っている。

一、地域消防団の方々も人命救済に力を尽くした。団員の殉職者は東北３県で250名を数える。一旦災害が起きた時、団員として先ず何をしなければならないか、普段から訓練を受けている。人の命を救うために自らの命を捧げた。

一、今回の菅首相の鳩山氏との取引は首相に一瞬軍配が上がったかのように見えた。だが、翌日になって、首相退陣の時期の、「一定の目途がつけば」を巡って首相は自ら墓穴を掘った感がする。「策士策に溺れる」とはこのことだ

一、長い間ゼロ金利に近い日本。恐らく利回りを考えて東京電力株を持っていた年配者は多い筈だ。東電の国有化、発電・送電の分離、原発事故賠償の無限責任などの政府高官の軽率な発言で、株価は大暴落。年配者の嘆きが聞こえてきそうだ。

一、良心的で手頃な有楽町ガード下の寿司屋さん。いつも賑わっていた。先日１年ぶりに訪ねた。さぞ満員と思っていたら、客は誰も居なかった。大震災以降客足がパッタリ止まったとご主人が嘆いていた。経済不況はそこまで及んでいる。

一、夢の超特急「リニア中央新幹線」の中間駅建設候補地が公表された。当面東京～名古屋間を平成39年までに開業を目指し、関西はその後となっているが、そうなれば関西の地盤沈下は一層ひどくなる。大阪までの同時完成が急がれる。

「えとす」購読のお願い

月刊誌「えとす」は
毎月一回の発行です。

毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、
ぜひお申し込み下さい

年間購読料　1200円

郵便振替口座 01000-4-62360
口座名：**みんなで政治を考える会**

── お問い合わせ先 ──
二ノ湯さとし事務所
電話　075-315-2228

ホームページを開設いたしました
http://www.ninoyusatoshi.com

「日本真生塾」　第10回例会のお知らせ

平成23年7月25日(月)　18時～21時
場所：**龍谷大学アバンティ響都ホール**
（京都駅八条口前アバンティ9F）
※東エレベーターからのみ上がれます

★今後のテーマは「戦後の日本」について進めてまいります。
使用するテキストは、「骨抜きにされた日本人」（1500円）
★日本真生塾は塾生を引き続き募集しております。
★毎月１回の例会を開催
★年会費　一般（社会人）　5000円
学生　2000円

＜お問い合わせは事務局へ＞（担当：近藤）
右京区西院坤町２ハウスドゥ四条ビル6F
TEL：050-7544-4018
メール：nihonsinseijuku@yahoo.co.jp
詳しくはホームページをご覧ください。日本真生塾 で検索。

日本真生塾　塾長　**岡本幸治**

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会　年会費　１万円

入会申込・お問い合わせ先
二ノ湯さとし事務所　☎075-315-2228

重宝がられるカレンダー　まだまだ多い希望者

５月号の「えとす」に東日本大震災の被災者がカレンダーを要望されているので、もしお手元にあれば事務所までご連絡くださいとお願いしたところ、多くの方々から寄贈いただき、誠に有難うございました。今なおかなりの方が欲しがっておられます。厚かましいお願いで恐縮ですが、是非ともお譲り下さいますようお願い申しあげます。